

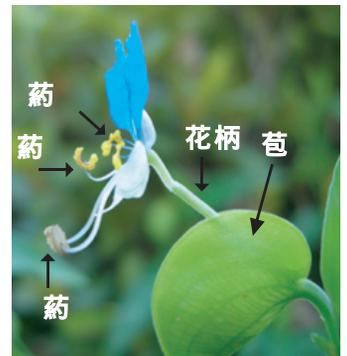
ツククサの花は面白い

1. 開花している時間

早朝夜明けとともに開花し、正午前には花を閉じてしまいます。露の付く時間帯に開花し、露のようにはかない花弁が溶けるように無くなり、色失せていく様は、日本人の自然観にあっていくようです。たくさんの蕾があるため、毎日咲いているようにみえます。

2. 花の構造

貝殻のように蕾の集まりを包んでいる円盤状の部分を苞^{ほう}といいます。葉が変形したもので、開花時には花柄^{かへい}が伸びてこの苞から花が外部へでます。花は原則、青色で大きな上向き花弁が2枚と色の薄い小さな下向き花弁が1枚、透明な萼片^{がくへん}が3枚、雄しべが6本、雌しべ^{めしべ}が1本あります。雄しべには、上に黄色で花系の短いもの(葯^{やく})が3本、黄色で花系の長いもの(葯^{やく})がめしべの上に1本、下に茶色で花系の長いもの(葯^{やく})が2本と、3種類あります。これらは形態・機能も異なります。



雄花

花柄：花をつけている柄 花系：葯を支えている柄 葯：花粉が入っている袋



両性花

3. 花の性

一つの苞で最初に開花する雄花はめしべを持ちませんが、その後には咲く両性花はめしべと3種のおしべをすべて持ちます。雄花は斜上する長い花柄につき、両性花は下にある短い花柄に3個くらいにつき、日をおいて開花します。開花の終わった苞を開いてみたものが下の写真です。

4. 花の各部の役目

ツククサには蜜腺がなく、開花時間も短いので昆虫の花粉運搬への依存は不利です。そのため、下2本のおしべとめしべを巻いて花を閉じるとき自家受粉します。上の黄色い雄しべ4本は役立つ花粉を持っていません。では何のために花弁や上の雄しべがあるのでしょうか。取り除いて虫がくるかどうか観察した結果、花粉を食べる虫にとって花弁は遠くからの、黄色い葯は近づいてからの目印になっていることがわかりました。黄色の役立たない(稔性^{ねんせい}がない)花粉を食べさせ、稔性がある茶色の葯の花粉運搬が、時おり起こることを期待して、他家受粉による遺伝的多様性維持にかけていたのです。

稔性：植物において有性生殖が可能であること。



果実